

コロナ・オミクロン株まん延の不安高まる中

週刊ポスト

「さながら超党派の忘年会」

自民・立憲民主・公明・無所属の県議と副知事・幹部職員ら26人が「宴会」



週刊ポスト1月1・7日号によれば、千葉県議会開会中の今月9日、自民党、立憲民主・千葉民主の会、公明党、無所属の県議らが千葉市内の焼き肉店を貸し切り、「宴会」を開きました。副知事や幹部職員も参加しています。「飲み会」は18時頃にはじまり、「男女の笑い声が店外の道路にまで響き渡り、マスクを外して会話する県議や、何度も席替える様子が窓越しに見える」「4時間ほど盛り上がった飲み会」「さながら超党派の忘年会のようだ」と伝え、一部のメンバーは、2次会、で24時頃までマスクを着用せずにカラオケに興じ、その店は「飲食店感染防止基本対策確認店」ではなかった、とのこと。



議長（右）に申し入れる加藤英雄県議、みわ由美県議
(12月21日 県議会議長室)

感染対策実践の模範となるべき 県議・副知事の責任は重大

議長に、調査や再発防止策などを緊急申し入れ

これが事実ならば、コロナ感染拡大収束の見通しが立たず、新たな変異株・オミクロンによる「第6波」の不安が高まっているもとの、県民は、呆れ果て、県議会や県行政にたいする不信は募るばかりです。そもそも11月25日の県新型コロナウイルス感染症対策本部会議でも、「3つの密」の回避、「人と人との距離の確保」「マスクの着用」などの基本的な感染対策の徹底をよびかけており、飲食時も会話の際のマスク着用、食事は短時間で、深酒をせず、大声を出さない等々を注意喚起しています。これらの感染防止対策への協力を県民に求めておきながら、同対策を率先して実践し、模範となるべき県議や副知事・幹部職員自らがそれを踏み破るようなことは、言語道断です。感染防止対策に対する県民の理解・協力にも支障が生じることは避けられません。参加した一部の議員は「軽率で不適切であった。深く反省している」とのことですが、事柄は極めて重大です。その責任は重く、厳しく問われなければなりません。

申し入れ 事項

1. 週刊誌報道の内容が事実かどうか、調査し、その結果を公表すること。
2. 仮に事実ならば、その経緯と責任の所在を明らかにすること。
3. 再発防止策を講じ、徹底すること。